

令和7年（2025年）度行政評価シート【個表】

令和 7 年 6 月 20 日

評価対象事業		評価者	ごみ減量対策課担当課長 大窪 宏典	
環境-03	ごみ収集事業	■ 自治事務	主管課	ごみ減量対策課
		□ 法定受託事務	関連課	環境センター
総合計画上の位置付け	分野	3-(3) 生活環境	施策の方針	3-(3)-①3Rの推進・ごみの適正処理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	一般廃棄物の適正な処理のため。
効果	生活環境の保全及び公衆衛生の安定が図られる。

2 令和6年(2024年)度を実施した事業の概要

・家庭系ごみの有料化を継続することによりごみの減量を図った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値／目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算／当初)(千円)		予算額(千円)	
01	家庭系ごみ有料化事務	一般廃棄物指定収集袋作成業務委託、徴収業務委託、運搬料	燃やすごみ収集量(トン)	18,205 / 17,210	15,522	105.79%	
				101,194 / 135,497	127,564		
02	戸別収集関連業務	車両リース料等	—	— / —	—	—	
				1,630 / 2,486	—		
03							
04				/			
				/			
05				/			
				/			
06				/			
				/			
07				/			
				/			
08				/			
				/			
09				/			
				/			
10				/			
				/			
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	101,096 / 137,983	127,423		
			一般財源	1,728 /	141		
			事業費の合計(千円)	102,824 / 137,983	127,564		
			人件費(千円)	49,885	14,664		

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	3.5	3.0	5.0	5.4	5.3	1.2
会計年度任用職員	4.0	4.0	3.0	5.0	5.0	3.2

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	家庭系ごみ有料化事務	分別の徹底やリデュース施策の推進を図った結果、目標を達成した。	有料化はごみを減量し、安定的なごみ処理体制を確立し、適正処理を行うためには必要不可欠であり、妥当である。	指定収集袋の安定的な在庫を確保する観点から、在庫管理・在庫量の確認手法について見直しが必要であると考えている。
02	戸別収集関連業務	—	—	—
03				
04				
05				
06				
07				
08				
09				
10				

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み
	関連・類似する事業の統合はできないか	1 統合済み
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	4 法令等により、市に実施が義務付けられている
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済 ○-2 適正な受益者負担を導入している
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-2 市民等と協働して実施する事業はない
		協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☐ 拡充	☒ 改善・変更	☐ 現状維持	☐ 縮小	☐ 休止・廃止
・クリーンセンターの技能労務職の退職に際し、新規職員を採用するという方針がない中、毎年度退職による減員対応経費として、品目ごとの資源化を図るために収集運搬業務を民間事業者へ委託しており、今後も民間事業者への委託業務におけるコスト抑制に努めていく。 ・資源化品目が多岐にわたるため、必然的に委託する収集運搬業務も多くなり、効率的な収集運搬業務への見直しを行う必要がある。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	市内から排出されるごみの総排出量の削減						単位	トン
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
ごみの排出量の削減は安定的で確実なごみ処理体制の構築に必要であるため * R6実績値は、神奈川県が取りまとめてR8.3に確定予定	目標値	59,771	57,556	56,837	56,388	55,935	55,488	
	実績値	60,471	58,593	56,779	53,894	未定		
	達成率	98.8%	98.2%	100.1%	104.6%	—		

指標(単位)	市内のごみ焼却量の削減						単位	トン
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
ごみ処理は、市町村の義務であるとともに市民生活に欠かすことのできないものであることから、周辺住民との協定に基づき、年間焼却量を見据え、適正に実施していくため	目標値	29,639	27,564	26,758	26,316	24,885	15,522	
	実績値	29,994	28,483	22,659	22,484	21,541		
	達成率	98.8%	96.8%	118.1%	117.0%	115.5%		

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	1人1日当たりのごみ排出量(令和5年度神奈川県 一般廃棄物処理実績報告)							
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市
他市実績	858	758	704	782	911	816	893	771

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	1人1日当たりのごみ排出量は県内市町村で10番目に多い数値となっている。中でも、観光地の特性から事業系ごみの割合が多いため、飲食店等から排出されるごみの発生抑制を推進することで、総排出量の削減を図る。
--------------------------	--